

## 第3章



---

### 活性化の基本的な考え方

# 第3章 活性化の基本的な考え方

地域住民や民間事業者等の多様な主体が協働でまちづくりに取り組むという考えのもと、それぞれの団地で独自の魅力が創出され、若い世代から高齢者まで多様な世代が活躍できるよう、以下のとおり基本理念及び目指す3つの将来像を掲げます。

## 3-1 基本理念

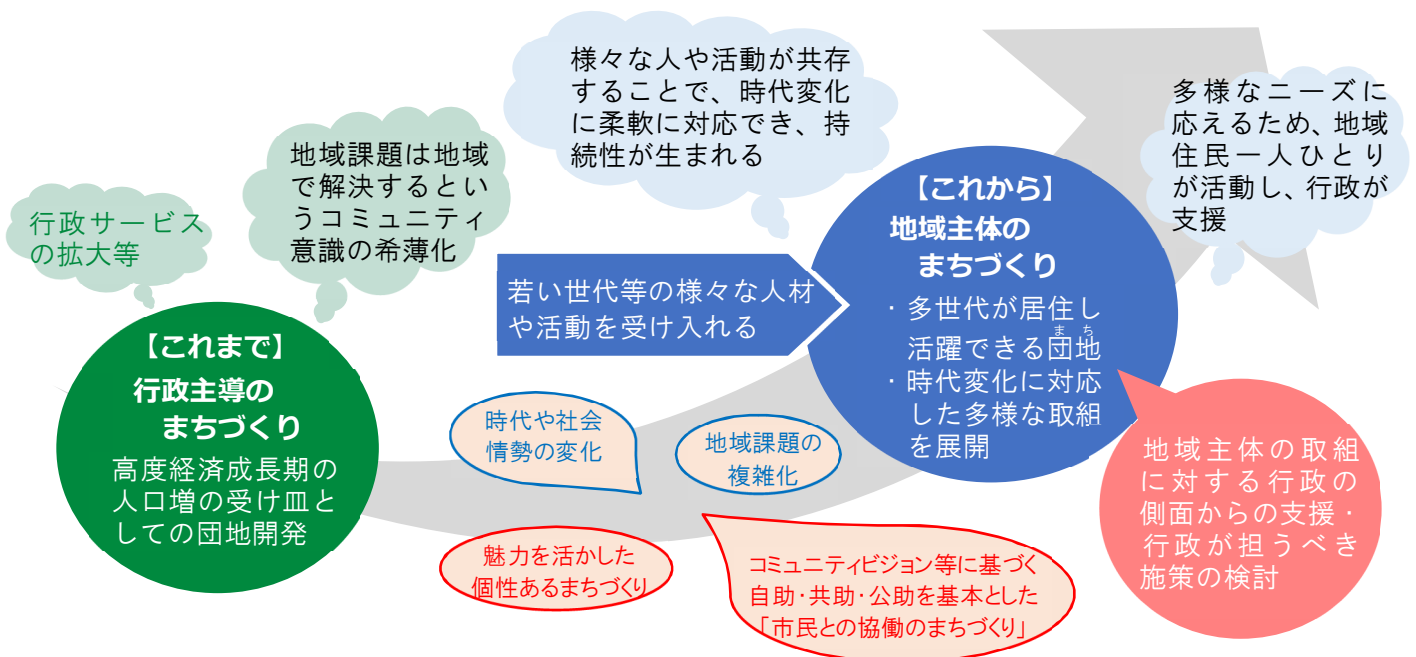
### 地域（一人ひとり）が主役になって

### 多様な世代が活躍できる団地を目指して

住宅団地では、同世代が一斉に入居したことにより、世代の偏りや高齢化が顕著となってきており、坂道の移動や車の運転が困難になるなど、入居当時と比べると求められるニーズが大きく変化しています。また、人口減少等に伴う空き家の発生、店舗等の減少やバスの減便など地域の抱える課題は複雑化しており、これまでの行政主導のまちづくりで全てを解決することは困難となっています。

こうした課題に対応するためには、これまで地域づくりに馴染みが薄かった若い世代や民間事業者等の活力も取り込みながら、まちづくりに取り組むことが重要です。このことにより、時代変化に柔軟に対応でき、まちに持続性が生まれ、団地それぞれの個性を活かした魅力を創出することに繋がります。

今後は、**地域（一人ひとり）が主役となり**、まちづくりを進めることによって、それぞれの団地で独自の魅力が創出されるとともに、次世代を担う若い世代を団地内に呼び込みながら、**多様な世代が活躍できる団地“まち”**となることを目指します。



## 3-2 将来像

基本理念の実現に向けて、今後目指すべき住宅団地の3つの将来像を掲げます。

将来像は、地域住民や民間事業者など団地に関わる全ての人たちが協働で、まちづくりに取り組むにあたって共有すべき方向性を示すものです。

これらの将来像が実現することにより、高度経済成長期の人口の受け皿としての団地から、若い世代から高齢者まで、誰もが安心して暮らしていくことができる多様性のある「まち」へ変わっていくと考えています。

### I. 若い世代が住んでみたくなる団地 ～「住んでみたい」、「住み続けたい」～

“多様な世代が活躍できるまち”を目指すには、次世代を担う若い世代を呼び込むことが必要です。そのためには、若い世代が入居しやすく、子育てや仕事をしやすい環境を整えることが重要であることから、若い世代が魅力を感じ、「住んでみたい」、「住み続けたい」と思える団地を目指します。



### II. 高齢者にも安心して住み続けられる団地 ～「住んでいてよかった」～

“地域（一人ひとり）が主役”となるには、高齢になってもいきいきと活躍できる場をつくることや、住民同士で支え合える環境を整えることが重要です。高齢者が住み慣れた地域で活躍でき、支え合いながら安心して暮らし続けることができる、「住んでいてよかった」と感じられる団地を目指します。



### III. 時代変化に対応した多様性のある団地

時代とともに変化する住民ニーズに柔軟に対応するには、団地内で多様な人や活動が交わり共存することが必要です。そのためには、団地内に様々な人が住まい、働き、子育てができる環境を整えることが重要であり、多様なニーズに対応した生活利便性の向上を図るなど、時代変化に対応した多様性のある団地を目指します。



